

7. 第3回 事務系職員・IT企業の連絡会 議事録

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
第3回 ITを活用した教育センターのワークショップ
事務系職員・IT企業の連絡会 議事録

【場 所】 1号館5階カンファレンスルーム 【開始時間】: 15:30 から

【参加者】 内金崎 智事務員（岩手医科大学）、歳桃 淳事務員（北海道医療大学）、片岡竜太教授、馬谷原光織助教、久米徳明課長、山村勇一事務員、乾 さやか事務員（昭和大学）山崎佳哉（昭和大学総合情報管理センター）、佐藤伸平代表取締役、林智取締役副社長（金沢電子出版株式会社）鈴木泰山取締役（株式会社ピコラボ）

1. 各大学の授業実施の報告
 - 1) 6月に実施された岩手医科大学3年生 e-learning 授業実施について、内金崎事務員（岩手医科大学）より報告があった。（別添資料1）
 - 2) 9月に実施された北海道医療大学3年生 e-learning 授業実施について、歳桃事務員（北海道医療大学）より報告があった。
 - 3) 9月に実施された昭和大学3年生 e-learning 授業実施について、乾事務員（昭和大学）より報告があった。また、ITを活用した教育センター事務局の業務・運営について確認を行なった。（別添資料2）
2. e-learning 授業の実施支援について佐藤様（金沢電子出版株式会社）より報告があった。（別添資料3）
 - 1) 運用マニュアルを作成することについて合意した。
 - 2) 26年度版学生・教員名簿運用フォーマットを定め、授業内容（事前学習課題、演習、リソース講義等）を標準化することについて次回教育センターSkype 会議で各WGヘッドに了承をとる。大学毎に変更があった場合は報告を依頼する。
3. VP 授業の実施準備および運営について鈴木様（株式会社ピコラボ）より説明があった。来年9月に行なう昭和大学授業事前準備については、下記項目が検討された。
 - 1) 症例をつくる
 - 2) 時間配分については菅沼教授と連携しながら、ピコラボがコントロールする。
 - 3) 3月くらいまでは症例プロトタイプを作成し、改善を行なう。
 - 4) インフラは現状のまま問題ないが、授業前にPCへインストールが必要なことと、接続の仕方が e-learning 教材とは異なるためオリエンテーションを行なう必要がある。
4. 自由記載問題について
 - 1) 自由記載問題の手動採点問題に対しては、教員が多忙で十分な対応ができていない。（昭和大学）
 - 2) 自由記載問題に対して採点を行わず、学生の感想・意見を教員が確認するものとしている（岩手医科大学・北海道医療大学）
 - 3) 採点が必要な場合はしばらくの間、なるべくキーワードを書き込み授業終了前に到達度を確認する目的で用いる予定。
 - 4) 自由記載問題でピコラボが開発した3つ組問題を今の e-learning システムに組み込み、金沢電子出版株式会社も利用できる旨了承された。 以上

IT 授業実施報告 (岩手医科大学 担当:内金崎)

日程

オリエンテーション	4月10日(水)	マルチメディア教室(有線 LAN)
トライアル	5月20日(月)	3年生講義室(無線 LAN)
講義	6月7日(金)以降	3年生講義室(無線 LAN)

1. 講義内容について

- 第一回 6月7日(金) 「高血圧症」(担当:城教授)
- 第二回 6月12日(水) 「社会背景(WG3 担当分)」(担当:城教授、近藤教授)
- 第三回 6月14日(金) 「社会背景(WG4 担当分)」(担当:城教授、藤村教授、須和部研究員)
- 第四回 6月19日(水) 「社会背景(WG4 担当分)」(担当:須和部研究員、城教授、藤村教授)
- 第五回 6月21日(金) 「口腔乾燥症(WG1 担当分)」(担当:熊谷助教、小林講師、城教授)
- 第六回 6月28日(金) 「口腔乾燥症(WG1 担当分)」(担当:小林講師、熊谷助教、城教授)

※下線:講義担当者

2. 事前準備について

1) 学生への通知について

- ・4月1日の時点で、3年生にPCを用意してもらう旨通知した。それを受け、4月10日のトライアルではほぼすべての学生がPCを準備して臨むことができた。用意していなかった学生も5月20日トライアルまでには用意できた。

2) 学生および教員の登録について

- ・今年度の講義においては、スケジュール的に非常にタイトであったことから、e-learning システム上への登録は支援企業の担当者をお願いした。来年度以降は学内で対応することが望ましい。

3) コンテンツの準備について

- ・授業の準備については、主に金沢電子出版佐藤様、昭和大学乾様、城教授、授業担当者、内金崎で、skype を利用した打ち合わせを中心に行った。スケジュールの問題もあり、打ち合わせ回数も最小限となってしまったため、講義構成についてはブラッシュアップする余裕がなかった。

3. 実施状況について

1) ネットワーク接続状況について

- ・オリエンテーションは有線接続にて実施したが、トライアル以降は無線接続にて実施した。
- ・序盤は接続に苦慮する学生も多く見受けられ、教員と事務員とでサポートに追われたが、終盤は比較的スムーズに講義を開始することができた。
- ・基本的なコンテンツは、60人程度が一度にアクセスしても動作環境に問題は見受けられなかった。動画については、e-learning 上では公開せずプロジェクターを使用したため、実際に回線に問題が生じるかは未確認である。

2) 担当業務について

- ・授業に係るスライドや資料は先生方に用意して頂き、e-learning を使用するためのマニュアル

ルや ID & パスワードの交付、予備の PC の準備等は事務員が担当した。ネットワークに問題が生じた場合は事務で対応する予定であったが、今回の授業においては大きなトラブルは無かった。

3) 学生の受講姿勢について

- e-learning には興味を持って取り組んでいたように見受けられたが、ID & パスワードや PC そのものを忘れてくる学生がいた。
- 操作方法や利用方法を教員・職員側が完全に理解する前に授業を始めてしまったため、前半の方はスムーズな進行とは言い難く、学生のモチベーションを低下させた可能性がある。
- 学生に気持ちよく IT 教材を使用してもらうには、正答の基準に幅を持たせることが重要である。
- 全ての講義において、事前学習→e-learning→リソース講義→確認テストの構成としたが、初回において学生への説明が不十分であったため、今何を何のためにやっているのか理解できない学生が少なからずいた。
- 2 回目以降は、授業の冒頭で学生に講義の構成を説明するようにしたことで、学習に取り組みやすくなったように思われた。また、1 回目の経験から、2 回目以降の最大の課題は接続の部分であると考えられた。
- 2 回目以降は学生も授業のスタイルに慣れたせいか、自分で進められるようになった。

4) e-learning の操作について

- トライアルにおいて e-learning の簡易マニュアルを配布しており、大半の学生は問題なく操作しているようであった。
- 初回講義においては、間違っって e-learning ではなく電子ポートフォリオにアクセスする学生が散見された。教職員側の説明が不足していた可能性もあり、二つの違いをより明確に学生に伝えるべきであった。

<各役割について>

教員 講義スライドの準備

事務員 学生・教員の登録情報の提供、簡易マニュアル作成、配布資料作成

業者 コンテンツの準備、学生・教員の登録

学生 PC の準備、課題の提出

<その他>

- 今回は初めてだったのである程度は仕方ないが、業者や昭和大学との打ち合わせには授業担当者の先生にも参加してもらうべきであった。
- 新しいコンテンツの進捗状況が分からないまま講義を開始することになったため、先の講義で使用できるように既存のコンテンツについても準備する必要があり、支援企業の方には大変ご迷惑をお掛けする結果となった。もっと全体を把握し、連絡を密に取るべきであった。
- e-learning を使用することに対して、学生への動機づけが不十分であった。

昭和大学 D3, D4 授業実施の報告

2013 年 11 月 21 日

昭和大学 歯学教育推進室

乾 さやか

1) 昭和大学 9 月の授業実施について (資料 1)

2) IT を活用した教育センターの業務・運営について (資料 2)

1. 3 連携校で作成した IT 教材は「教材プール」に入れる。
2. 各大学は対象学年、授業スケジュールに応じて、「教材プール」から教材を選び、授業用 IT 教材を作成する。(責任者：各大学授業責任者)
3. それぞれの大学における授業は、各大学が責任を持って運営する。(責任者：各大学教務部, 授業責任者) *
4. 授業終了後、アンケート結果、正答率の情報は各大学が教育センターに送付し、教育センターが集計する。 **
5. 上記の作業が円滑に行えない場合は、教育センターに連絡する。教育センターは必要に応じて、IT 業者に支援をお願いする。

* 学生登録、教員登録は各大学で責任を持って行う。登録方法などが不明な場合は教育センターに連絡をする。教育センターは IT 業者に説明をお願いする。

** 教育センターに送付する場合は、学生名は削除し、出席番号のみとする。

3) 授業を実施して感じた問題点について

以上

昭和大学歯学部 3年生に対する授業計画 修正版

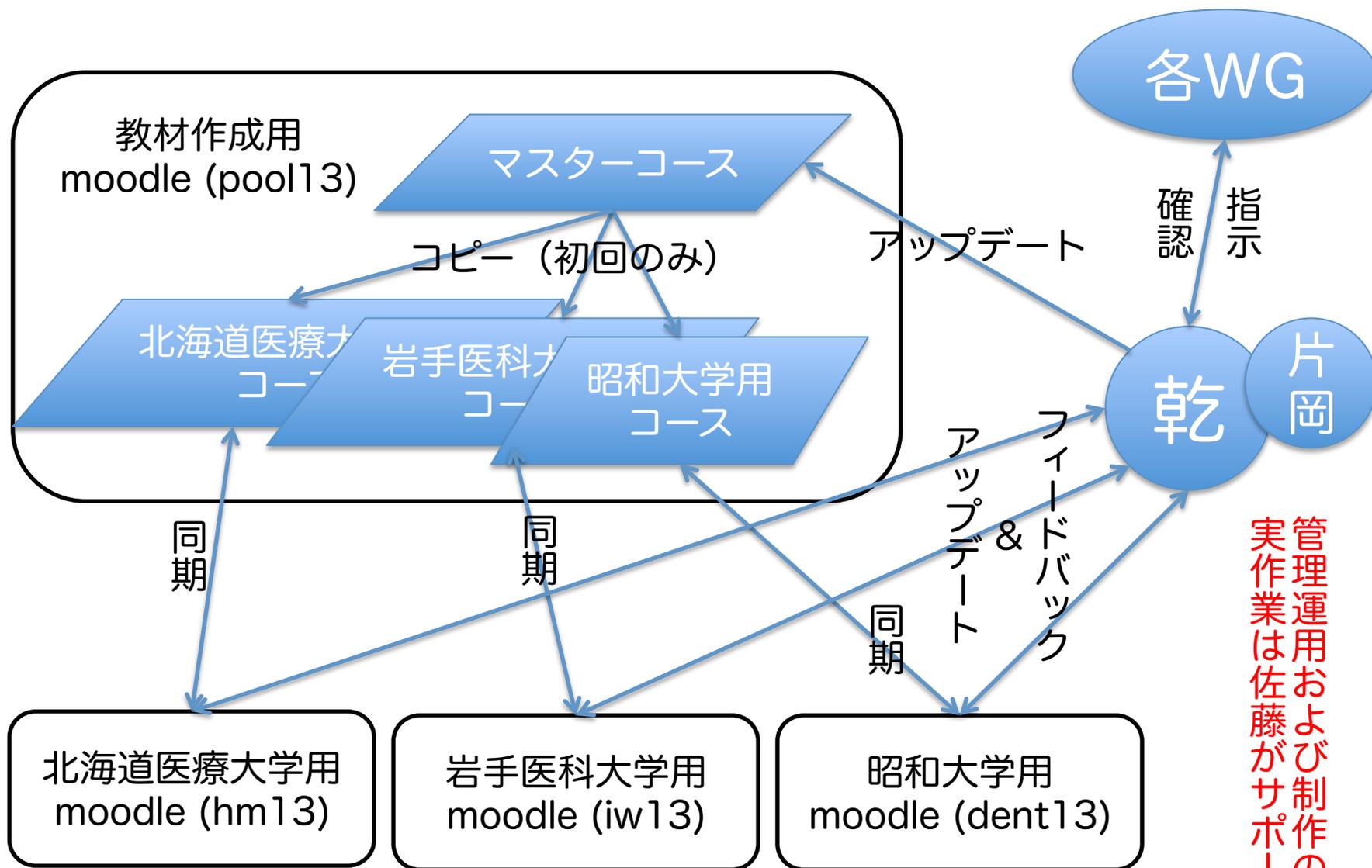
授業(回)	年月日	時限	学習項目	学習内容	対象SBO	担当
授業1 授業2	平成25年 9月10日 (火)	1 2	全身がわかる 歯科医師が なぜ必要か？	日本の高齢化率、将来人口推計から今後の日本の社会と医療を考える。 高齢者の身体的、心理学的特徴と高頻度に見られる基礎疾患と口腔疾患を学ぶ。 ビデオを通じて、歯科診療と全身状態との関連について考える。	1 2 3 4 5 6	口腔衛生 責任者： Group3 弘中 Group4 越野
授業3 授業4	平成25年 9月17日 (火)	1 2	脳梗塞を発症した患者から、医療の仕組みを学ぶ	脳梗塞を発症し、入院加療の後に、自宅療養中の患者の歯科受診を通して、医療・歯科医療の仕組みと連携を学ぶ。 チーム医療の基本(構成メンバーと役割)および歯科が担う口腔のケアの目的を学ぶ。	1 2 3 4 5 6	口腔衛生 責任者： Group3 弘中 Group4 越野
授業5 授業6	平成25年 9月24日 (火)	1 2	口腔乾燥症と疾患 ①	唾液・唾液分泌機能について、基本的事項を e-learning で学ぶ。 基礎疾患を有する患者のシナリオを用いて Small Group Discussion により唾液分泌に影響を与える因子とそのメカニズムについて学習する。	7 8 9	口腔病理 責任者： Group1 美島
授業7 授業8	平成25年 10月1日 (火)	1 2	口腔乾燥症と疾患 ②	グループで課題に対する説明を考え発表する。 発表後、e-learningとリソース講義により唾液・唾液分泌における基本的事項の確認基礎疾患と唾液分泌障害の関連性について理解する。 口腔乾燥症の患者に対する口腔ケアについて学ぶ。	7 8 9 10	口腔病理 責任者： Group1 美島 Group3 弘中
授業9 授業10	平成25年 10月1日 (火)	3 4	口腔診察・ 検査実習と疾患	唾液分泌能(ガム、サクソテスト)、口腔乾燥度、細菌数、嚥下機能、および咬合力の測定を学生相互で実施し、結果をカルテに記入する。 異常値が得られた場合、原因や原疾患について e-learning で学ぶ。 これらの検査を活用した D4 実習、D5 病棟実習についてリソース講義で学ぶ。	7 8 9 10	病理 生理 微生物

昭和大学歯学部4年生:チーム医療と口腔医学Ⅱ(チーム医療Ⅱ)

◆行動目標(SBOs)

1. 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。
2. 高齢者に多く見られる基礎疾患について概説できる。
3. 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
4. 脳卒中後の患者の歯科診療における注意点を概説できる。
5. 脳卒中発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説できる。
6. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明できる。
7. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
8. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。
9. 口腔乾燥を認める患者に対する口腔ケアについて説明できる。
10. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、その結果を評価できる。

授業(回)	年月日	時限	学習項目	学習内容	対象SBO	責任者
授業1	25.10.1	4~6	全身がわかる 歯科医師が なぜ必要か?	日本の高齢化率、将来人口推計から今後の日本の社会と医療を考える。高齢者の身体的、心理学的特徴と高頻度に見られる基礎疾患と口腔疾患を学ぶ。 ビデオを通じて、歯科診療と全身状態との関連について考える。	1,2,3,4,5,6	片岡 弘中
授業2						
授業3	25.10.8	4~6	脳梗塞を発症した患者から、 医療の仕組みを 学ぶ	医療・歯科医療の仕組みと連携を、脳卒中の発症(急性期病院)からリハビリテーション、自宅療養(現在)に至る患者さんの話から学ぶ。 チーム医療の基本(構成メンバーと役割)および歯科が担う口腔のケアの目的を学ぶ。	1,2,3,4,5,6	弘中
授業4						
授業5	25.10.15	4~6	口腔乾燥症 と疾患	高齢者に多い口腔症状としての口腔乾燥症を学ぶ。 基礎疾患を有する患者のシナリオを用いてSmall Group Discussionにより唾液分泌に影響を与える因子とそのメカニズムについて学習する。	7,8,9,10	美島
授業6						
授業7	25.10.22	4~6	口腔ケアの実際 を学ぶ。	病棟実習に向けて口腔乾燥症などの患者に対する口腔ケアの実際を学ぶ	4,8,9,10	弘中
授業8						
授業9	25.10.29	4~6	口腔診察・ 検査実習と疾患	唾液分泌能(ガム、サクソテスト)、口腔乾燥度、細菌数、嚥下機能、および咬合力の測定を学生相互で実施し、結果をカルテに記入する。異常値が得られた場合、原因や原疾患についてe-learningで学ぶ。これらの検査を活用したD5病棟実習についてリソース講義で学ぶ。	7,8,9,10	美島 井上(富) 桑田
授業10						



各大学用のmoodleで授業実施およびフィードバック

e-learning 授業の実施支援について

2013 年 11 月 21 日

金沢電子出版株式会社

1. eラーニング実施運用のイメージ
(別紙イメージ図を参照)

2. eラーニングシステムに関して
 - ① 教材共有サイト
 - ・ サイト管理：昭和大学，金沢電子出版
 - ・ ユーザー管理；金沢電子出版
 - ・ コンテンツ管理；金沢電子出版
 - ② 各連携大学サイト
 - ・ サイト管理；各大学，金沢電子出版
 - ・ ユーザー管理；各大学
 - ・ コンテンツ管理；各大学

3. サイト間コンテンツの流れ
 - ① 各WGによるコンテンツの作成，改良を教材共有サイトでおこなう
 - ② 利用するコンテンツを各大学サイトにコピーする
 - ③ 各大学サイトでコース作成およびコンテンツ調整をおこなう
 - ④ 各大学サイトで授業実施後にコースを丸ごと教材共有サイトにコピーする

別紙：イメージ図

